

長生きの秘訣を学ぼう

～地域の高齢者との交流を通して～

教科・領域 総合的な学習の時間

周防大島町立森野小学校5・6年

キャリア教育の観点

郷土の特色や課題を調べていく中で関心を抱いたことに基づき、交流を通して地域の高齢者の方々の知恵や願いを知ることで、自分の生き方を考えさせ、そこから抱いた思いを地域に向けて発表しようとする活動です。

【自己理解・自己管理能力】【キャリアプランニング能力】

共通課題の設定

本校の総合的な学習の時間では、テーマの一つとして「ふるさと学習」に取り組んでいる。教材化する素材は毎年変わるが、将来にわたって、ふるさと「もりの」に軸足を置いた生き方ができる人間を育てたいという基本的な考えはずっと続いている。

平成24年度の5・6年生（複式学級）は、周防大島町を紹介しているパンフレットや新聞記事やホームページなどを見て、各自が関心のある事柄を見つけ、課題として調べて発表することからスタートした。特産物（みかん、いりこ…）、自然（神山、サンゴ…）、著名人（宮本常一、星野哲郎…）等が取り上げられる中で、ある児童が「東和町が高齢化日本一の町である」という話題を見つけてきた。

本校のある森野地区は、平成16年に周防大島町に合併する前は、旧東和町に位置していた。普段から自分たちの周りに高齢者が多いことを知ってはいたが、日本一であったことは知らない児童もいた。

そこで、「周防大島は高齢化の島である」という事実をもとに、「高齢化とはどんなことか？」「それは、よいことなのか？悪いことなのか？」を調べたり議論したりして理解を深めていく一方で、「周防大島の高齢者は、どうして長生きができるのだろうか？」という疑問がわいてきた。

こうして

地域の高齢者に、「長生きの秘訣」を聞いてみよう。

という共通課題ができた。

地域の高齢者との交流

長生きの秘訣を知るには、実際に長生きしておられる人に聞くのが一番だろうと、地元の高齢者にインタビューすることにした。この学習の取材先としてお世話になったのは、特別養護老人ホーム「白寿苑」、高齢者の社会教育講座「かがやき塾」、地域の高齢者の集い「平野サロンの会」である。それぞれに特色のある施設や団体であるため、交流を通じて児童は多様な体験をすることができた。

題 「長生きのひみつ」

私達は、お年よりが佳木まる
△云に行きました。
私は、ま白ちゃんとペアを組
んで、色んな人にインタビューし
ました。
中でも、よく笑う事というの
は、私たちに、たう、毎日の日
かのようなものなので、私たちが
きくと、長いことができます。
ですが、笑うばかりでは、長生
きはできませんので、みなさん
に聞いたことを、自分にいかした
いのです。

児童の手を握りしめて何度も感謝の言葉を口にする方や、自分は若手だから長生きの本番はこれからだと笑い飛ばす方など、聞き取った内容以上に、生き様にふれることができたのは貴重な学習であった。



教えていただいたことを分類しながらまとめていった。メモをもとに、聞き取った時の状況を振り返ったり、言葉の意味を話し合ったりするうちに、当初は分からなかった意図に気付いたり、自分たちなりの解釈ができるようになっていった。

「食」について

- ・ バランスの良い食事をする
- ・ 腹八分目を心がける
- ・ 好物をつくる、
- ・ 塩分や糖분을ひかえる
- ・ 魚や野菜を食べる

「生活」について

- ・ 規則正しい生活をする
- ・ 畑仕事をする
- ・ 毎日歩く
- ・ 趣味を楽しむ
- ・ 友だちをつくる

「気持ち」について

- ・ くよくよしない
- ・ 仲良くする
- ・ よく笑う
- ・ 人をほめる
- ・ ひまをしない

まとめ・発表会

1月の学習発表会で、学習の成果を地域に向けて発表した。

22世紀を迎える年に、この学級の児童が100歳になるので、「22世紀まで開けられない宝を手に入れたために、100歳まで長生きしよう。」というあらすじの劇を演じた。調べてきた長寿の秘訣を伝えるだけでなく、100歳という目標に向かって努力することの大切さを主張する発表となった。

交流を通して自分たちに伝えられた高齢者の思いにふれたとき、「どうすれば長生きできるか。」という発表は、「どんな生き方を高まっていた。

最終場面の台本の一部

子どもE このとおり、全員そろっていますよ。
 子どもA あの時の宇宙人さんじゃ。
 子どもF なつかしいのう。
 子どもB お久しぶりでしたのう。
 宇宙人 これはすごい！全員そろって百才になるとは、たいしたものですね。それでは、約束どおり、この宝の箱を開けてください。
 子ども全 わはははは(笑う)
 宇宙人 どうしたのですか？
 子どもG 宇宙人さん、その箱を開けなくても、何が宝なのか、わしらは分かったんじや。
 子ども☆ こうして元気に百才まで生きられたこと、それこそが宝だったんじや。
 子ども★ 子どものころ、わしらは「百才まで生きる」という目標を決めた。
 子どもC そして、その目標をめざして、自分のことを大切に、周りの人のことも大切に、いろいろなことに取り組んできた。
 子どもH 目標を決めて、それに向かってがんばること——それが、人間にとって一番大切なことじゃ。
 子どもD 人間にとって大切なものを「宝」というんなら、もう、わしらは、その宝を手に入れておる。
 子どもE 宇宙人さん、だから、もうその箱は開けなくてもいいんじやよ。
 宇宙人 わかりました。本当に大切な宝は、人からもらうのではなく、自分の力で手に入れるものだということですね。子どもの時の君たちが、お年寄りからそのことを学んだように、今度は、君たちが、そのことを周りの人たちに教えてあげてください。今度は、さようなら。わたしは、この宝の箱を持って、ほかの星へ行きましよう。

考察 ・ 課題

進路を模索し始める高学年児童に対し未来への希望をもたせるとともに、生き方へのこだわり気付かせたいと願い、本単元を実践した。

本校の総合的な学習の時間では、「地域に素材を求める」「地域で体験する」といった学習の土壌があり、教室を飛び出してフィールドワーク的に活動するのは自然な流れであった。児童も校外での活動を好む傾向があるが、環境が変わることによる刺激を求めるだけでなく、そこに自分にとって役に立つ人や物、情報があることを認識しているのであろう。また、学校に対する理解が深いという地域の風土も大いに助かっている。

校外＝実社会で学習する際のルールやマナーを確認しながら、学習計画を立てた。校内外に行事の多い高学年は、計画を立てる際の調整が難しく、まして外部の施設や団体と連携を図るには、事前の打ち合わせ等も必要になってくる。そのため、効率的な学習を進めるには、日頃から協力態勢を整えておくことが大事である。

地域から学ぶことは、直接的な学習課題の解決にもつながるが、それを越えた教育的な効果があることも忘れてはならない。今回の聞き取りの中で、「目標をもって生活すること」と回答してくださった方がおられた。生きがいがあることが長寿の秘訣であることはもちろんだが、学習を進めるうちに、この回答は、子どもたちに対するメッセージであるような気がしてきた。学校や子どもに対する地域社会の思いや願いを直接受け止めることができたのは、キャリア教育の観点からも非常に有意義であった。



全体計画との関連

森野小学校キャリア教育全体計画

